

AXIOLEとShibboleth IdPオプションを導入し 短期間で学認への接続を実現した京都府立大学

導入企業



京都府立大学

大学名：京都府立大学
学長：渡辺 信一郎
開学：1895 (明治28) 年
学生数：学生約2,200名、教員約150名、職員約70名

キャンパス：
[下鴨キャンパス] 京都市左京区下鴨半木町1-5
[精華キャンパス] 京都府相楽郡精華町大字北極八間小字大路84番地

<http://www.kpu.ac.jp/>

1895年に創立した京都府簡易農学校と1927年に創立した京都府立女子専門学校を前身とし、現在は文学部、公共政策学部、生命環境学部の3学部と3つの大学院で構成される総合大学。高度な教育、研究を進めるとともに、京都府の知の拠点として地域社会の発展と府民生活向上を担っている。



京都府立大学
全学情報総括責任者(CIO)
大学院生命環境科学研究科
環境科学専攻
教授 工学博士
尾崎 明仁 氏



京都府立大学
事務局企画課
主査
山田 幸一 氏



京都府立大学
事務局企画課
嘱託(情報担当)
寺町 伸太郎 氏



京都府立大学
事務局企画課
嘱託(情報担当)
米平 豊治 氏

MISSION

- 学術認証フェデレーションへの接続に必要な認証基盤整備
- 多くのシステムで活用できる学内統一認証基盤の整備
- 導入、運用負荷の低い認証システムの実現

SOLUTION

- 学術認証フェデレーションに準拠したShibboleth IdPオプションを採用
- 標準的なLDAPプロトコルで多くのシステムとの認証連携が可能
- 使いやすいGUI画面の搭載で少人数、低負荷で運用が可能

導入の経緯

京都府立大学は現在、同じく京都市内にある京都工芸繊維大学、京都府立医科大学との教養教育や施設利用の共同化を推進している。教養教育の単位互換を進めるなど連携を深めるために、それぞれの大学の学生がキャンパスを行き来しながら学習できる環境の整備を進めることになった。「学生がどのキャンパスにいても学習に必要な情報を得られるために、ネットワークや認証環境の整備も必要でした。3大学の認証基盤をひとつにまとめるのは現実的ではないので、それぞれの大学で認証システムを持ち、学術認証フェデレーションへの参加を目指すことになりました。(全学情報総括責任者(CIO) 尾崎 明仁教授)」

学術認証フェデレーション(以下、学認)とは、Shibbolethによる全国の大学や研究機関が参加する相互認証連携の仕組みだ。参加大学同士であれば、所属大学のIDとパスワードを使ってネットワークの相互利用が可能になる。

導入決定のポイント

京都府立大学には学内統一の認証基盤が整備されておらず、各部署でそれぞれ整備したサーバをそれぞれのID、パスワードで利用していた。「統一認証基盤の整備は積年の課題となっていました。3大学の連携や学認への参加を目指すこととなったことを契機に、本格的に取り組むことになりました。(事務局企画課 米平 豊治氏)」

広く使われている認証方式であるLDAPを採用することが決定したが、実際の認証基盤整備までの道りは容易ではなかった。LDAPは大規模環境で使われることが多く、認証製品やソリューションも数万人規模を想定した高額なものばかりだったのだ。「学生、教員合わせて3千名程度の環境には似合わない規模とコストの見積もりが並びました。そんな折、京都工芸繊維大学の先生から紹介されたのがネッツpringのAXIOLEでした。(米平氏)」

実際にAXIOLEに触れてみたところ、わかりやすいGUI画面が用意され学内での運用が可能なおことがわかった。さらに、学認IdPへの対応が進められていたことなどが決め手となり、AXIOLEを中心とした統一認証基盤の整備がスタートした。

学術認証フェデレーションへの接続を容易に実現 学内統一認証基盤としても多くのシステムで活用



学認との接続に準拠した Shibboleth IdP オプションを導入

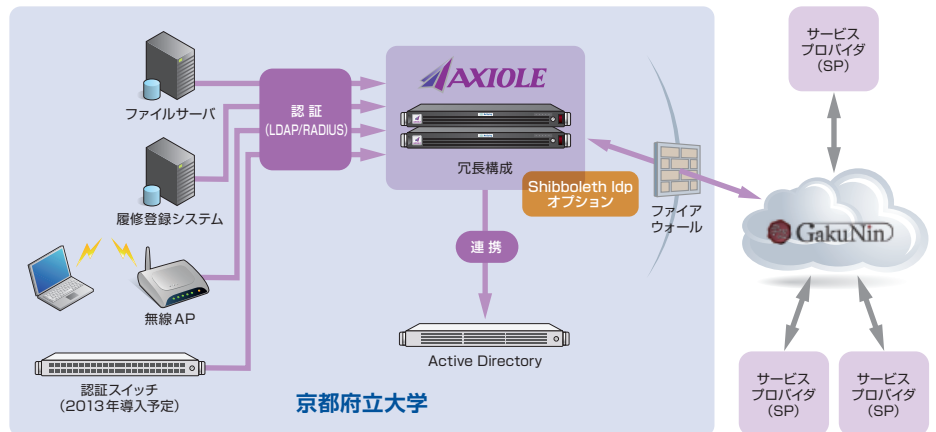
学内に統一認証基盤を整備することが必要となった京都府立大学は、LDAP認証製品を探した。多くの認証製品が大規模環境を想定している中で、より使いやすい認証ソリューションを模索した結果、採用されたのがネットスプリングのAXIOLEだった。選定当時、学認IdPへの対応を進めている最中であり、学内の統一認証基盤整備から学認への参加までスムーズに進められると期待しての選定だった。

機能面では、冗長化が容易なのも大きなポイントだった。「ネットワークを使う入り口になる製品ですから、可用性が重要です。AXIOLEは簡単に冗長化構成を組めるうえ、価格面でも他の製品のシングル構成と同程度の予算で冗長構成が可能でした。(事務局企画課 寺町 伸太郎氏)」

京都府立大学のAXIOLEは2010年12月に稼働を開始、2012年3月にリリースされたばかりのShibboleth IdPオプションを導入して各種テストを実施した。2013年1月には学認との接続についても学内にアナウンスされ、教員を中心に利用が始まっている。「学認との接続テストにおいては、フィールドで試さなくてはわからない課題もいくつか見つかりました。そのたびにネットスプリングと二人三脚で課題を解決してきたので、今後の運用サポートに関しても信頼できるパートナーを得られたと実感しました。(米平氏)」

学内統一認証基盤として 幅広い活用を想定

既存のActiveDirectoryとも連携しており、



AXIOLE導入以前には各システムで個別に行われていた認証やID管理は、一元化が可能になった。また、AXIOLE導入を機にID発行手順の見直しも行われている。「大学では毎年多くの学生が入り替わるため、一般企業に比べてID管理は難しくなります。誰が使っているか、何に使われているかわからないIDが残る恐れもあります。こうした管理をしっかり行うことで、学認への接続や他大学との連携にも安心して取り組むことができます。(事務局企画課 山田 幸一氏)」

IDの信頼性を高めるため、AXIOLEへのID登録時に必ず有効期限を設定する運用を採用。使い続けるIDのみ有効期間の延長手続きを行なうことで、必要なIDを有効に保ち、不要になったIDが残ることを防いでいる。

教員は学会などに伴う出張中にも他大学のネットワークを通じて業務を進められるようになった。今後は学内LANの再構築を通じて、別システムで行われているMACアドレス管理をAXIOLEに集約していくことが検討されている。認証をAXIOLEに集約すれば、一元管理できるようになるだけでなく、今後立ち上が

るシステムにおいては認証の仕組みを考える必要がなくなると期待されている。「学内で運用しているファイルサーバもWebDAVの導入で、AXIOLEの認証を経て学外からでも利用できるようにしました。学生も自宅や他大学のキャンパスから学習に必要なコンテンツにアクセスできるようになり、情報教育の一環としても役立ってくれるでしょう。(寺町氏)」

クラウドなど新たな取り組みの 基盤としてもAXIOLEを利用

クラウドなど新たな仕組みを業務、学習に取り入れていくためにも、統一認証基盤を活用していきたいと尾崎教授は希望を述べる。「ITの先端研究をしている訳ではないので先進的なことをする必要はありませんが、技術として確立したものを先導的に取り入れていくことは大学として必要だと考えています。LDAPという確立された技術を活用し、普及段階に入ったクラウドをうまく使っていこうという取り組みも、そうした実践のひとつです。(尾崎教授)」

【製品ホームページ】 <http://www.axiole.jp/>

※ AXIOLEは、株式会社ネットスプリングの登録商標です。 ※ その他、記載されている各商品名は一般に各社の登録商標です。 ※ 製品の仕様は予告なく変更することがあります。

開発元



株式会社ネットスプリング

<http://www.netspring.co.jp> お問い合わせ先 E-mail:info@netspring.co.jp
本社 〒108-0073 東京都港区三田3-12-16 山光ビル2F
TEL.03-5440-7337 FAX.03-5440-7338 サポートセンター TEL.050-5536-4841

お問い合わせ